

自転車関連事故に係る分析

はじめに

警察庁交通局の標記文書(平成 31 年 4 月 25 日)の要旨を紹介する。今回の分析結果を要約すると次のとおりだそうである。

- ① 自転車関連死亡・重傷事故は減少傾向
- ② 対自動車事故が全体の約 8 割で、うち約 6 割が出会い頭
- ③ 学齢別では、高校生の事故が最も多く、朝の登校時に多い
- ④ 対歩行者事故は、自転車側の 4 割弱が 10 代、歩行者側の約 6 割が高齢者
- ⑤ ヘルメット着用者率は、中学生で約 4 割、高校生・全体では 1 割未満
- ⑥ 児童・生徒の約 8 割に法令違反あり 等

■ 自転車関連死亡・重傷事故件数の推移

表 1 は、平成 20 年～30 年間の自転車関連死亡・重傷事故(第 1・第 2 当事者)件数の推移である。減少傾向にあり、平成 30 年は平成 20 年の、死亡重傷事故全体で 63.9%、65 歳以上で 69.5%であった。また、死亡事故は全体で 62.1%、65 歳以上で 61.9%であった。

表 1 自転車関連死亡・重傷事故件数の推移(平成 20 年～30 年)

平成年		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
死亡重 症事故	全体	13,547	12,961	12,360	11,880	11,248	10,540	10,261	9,469	8,877	9,107	8,660
	65 歳以上	5,098	4,895	4,662	4,267	4,172	4,027	3,958	3,882	3,748	3,670	3,542
うち死 亡事故	全体	731	709	668	644	566	604	542	577	509	479	454
	65 歳以上	473	449	410	380	362	379	346	372	343	324	293

■ 相手当事者別件数、事故類型別「自転車対自動車」事故件数

- 相手当事者別自転車関連死亡・重傷事故(第 1・第 2 当事者)件数(平成 26 年～30 年合計)
46,374 件中、対自動車 35,681 件(76.9%)、対二輪車 2,619 件(5.6%)、対歩行者 1,618 件(4.5%)、自転車相互 1,962 件(4.2%)、自転車単独 3,438 件(7.4%)、その他 1,056 件(2.3%)で、対自動車が圧倒的に多い。

- 事故類型別「自転車対自動車」死亡・重傷事故(第 1・第 2 当事者)件数(平成 26 年～30 年合計)

35,681 件中、出会い頭衝突 19,949 件(55.9%)、右左折時衝突 9,046 件(25.4%)、追越追抜時衝突 1,208 件(3.4%)、追突 1,406 件(3.9%)、その他 4,072 件(11.4%)で、出会い頭衝突が圧倒的に多い。

■ 「自転車対歩行者」事故の年齢層別衝突地点別件数

● 「自転車対歩行者」事故のうち歩行者死亡・重傷事故における自転車運転者(第1・第2当事者)の年齢層別件数(平成26年～30年合計)

1,528件中、10～19歳555件(36.3%)、20～29歳281件(18.4%)、30～39歳186件(12.2%)、40～64歳312件(20.4%)、65歳以上167件(10.9%)、9歳以下27件(1.8%)で、10代が圧倒的に多い。中学生は132件(8.6%)、高校生は301件(19.7%)であった。

逆に歩行者側から見ると、9歳以下117件(7.7%)、10～19歳29件(1.9%)、20～29歳19件(1.2%)、30～39歳43件(2.8%)、40～64歳406件(26.6%)、65歳以上914件(59.8%)で、65歳以上が圧倒的に多い。

● 「自転車対歩行者」事故(自転車第1・第2当事者)のうち歩行者死亡・重傷事故における衝突地点別件数(平成26年～30年合計)

1,528件中、歩道575件(37.6%)、路側帯87件(5.7%)、非分離道路(中央線等のない道路)247件(16.2%)、第一通行帯等(片側一車線道路の左車線等)207件(13.5%)、交差点内320件(20.9%)、その他92件(6.0%)で、歩道が圧倒的に多い。

■ 児童・生徒の自転車関連死亡・重傷事故件数の推移

表2は、平成20年から30年までの児童・生徒の自転車関連死亡・重傷事故(第1・第2当事者)件数の推移である。減少傾向にあり、平成30年は平成20年の、死亡重傷事故全体では、高校生67.6%、中学生46.5%、小学生32.4%であった。また、死亡事故は高校生48.0%、中学生53.8%、小学生50.0%であった。

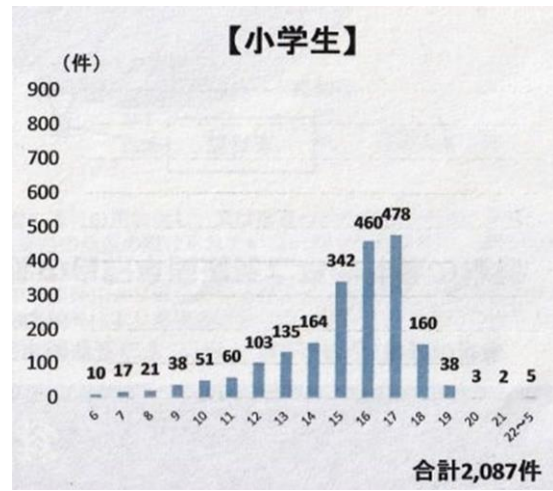
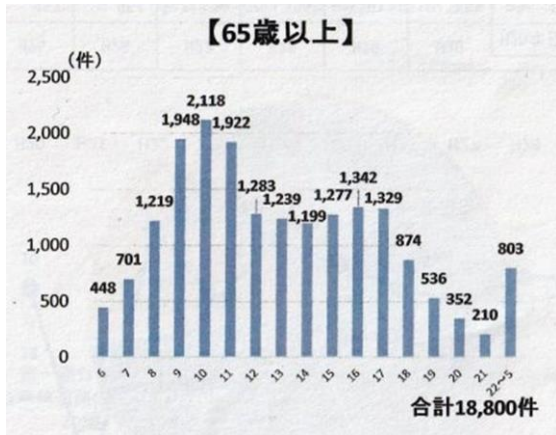
表2 児童・生徒の自転車関連死亡・重傷事故件数の推移(平成20年～30年)

平成年		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
死亡 重症 事故	高校生	1,151	1,145	1,128	1,079	1,056	957	954	808	800	817	778
	中学生	825	766	745	695	666	594	547	471	360	466	384
	小学生	883	881	689	666	634	568	541	423	401	436	286
うち 死亡 事故	高校生	25	21	16	31	20	14	14	16	11	10	12
	中学生	13	7	20	7	8	8	5	4	5	3	7
	小学生	10	26	5	11	6	8	10	11	9	9	5

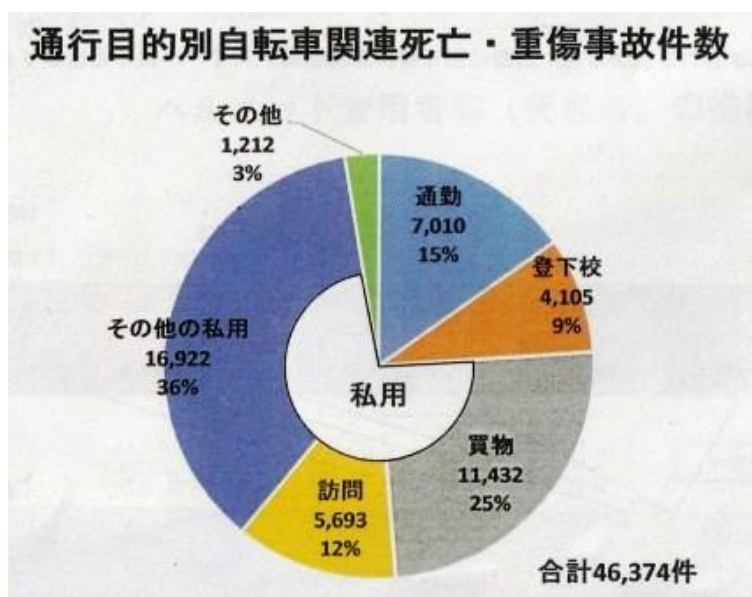
■ 時間帯別自転車関連死亡・重傷事故(第1・第2当事者)件数(平成26～30年合計)

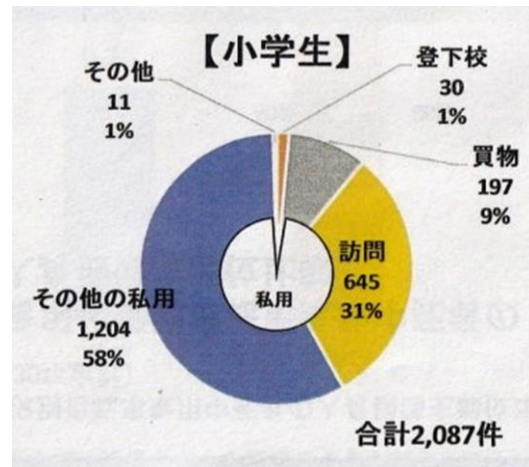
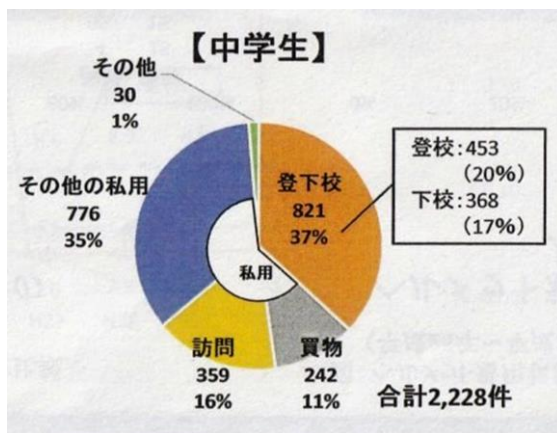
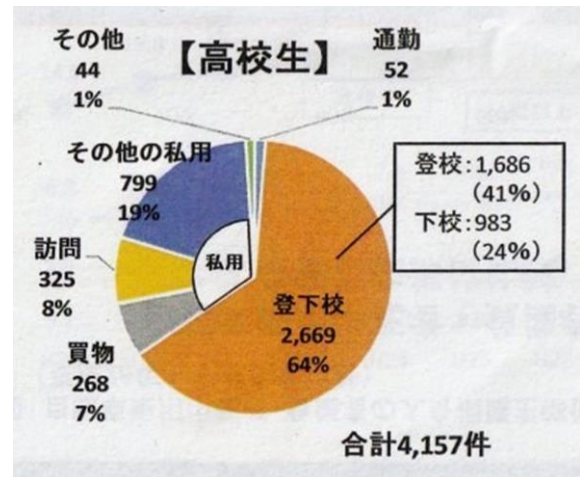
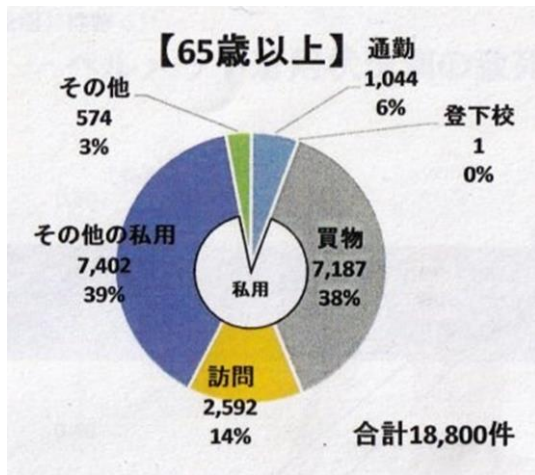
午前8時前後と午後5時前後の通勤・通学時間帯が多い。





■ 通行目的別自転車関連死亡・重傷事故(第1・第2当事者)件数(平成26~30年合計)





■ 自転車乗用中死者・負傷者の人身損傷主部位、ヘルメット着用状況別の人身損傷主部位

● 自転車乗用中死者・負傷者の人身損傷主部位比較(平成26年～30年合計)

死者2,553人中、頭部1,555人(60.9%)、頸部165人(6.5%)、胸部305人(11.9%)、腰部139人(5.4%)、腕部4人(0.2%)、脚部18人(0.7%)、その他367人(14.4%)で、頭部が圧倒的に多い。

また、負傷者467,596人中、頭部53,027人(11.3%)、頸部53,338人(11.4%)、胸部23,168人(5.0%)、腰部43,927人(9.4%)、腕部94,148人(20.1%)、脚部170,661人(36.5%)、その他29,327人(6.3%)で、脚部が圧倒的に多い。

● ヘルメット着用状況別死者の人身損傷主部位比較(平成26年～30年合計)

着用者97人中、頭部43人(44.3%)、頸部9人(9.3%)、胸部24人(24.7%)、腰部7人(7.2%)、その他14人(14.4%)で、やはり頭部が圧倒的に多い。

また、非着用者2,435人中、頭部1,500人(61.6%)、頸部155人(6.4%)、胸部279人(11.5%)、腰部18人(5.4%)、脚部18人(0.7%)、その他349人(14.3%)で、頭部が圧倒的に多い。

平成21年～30年の間の合計では、非着用者は着用者と比べて致死率(死者数/死傷者数)が約2.5倍となっている。

■ 自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者の法令違反なし構成率の推移、児童・生徒の法令違反件数

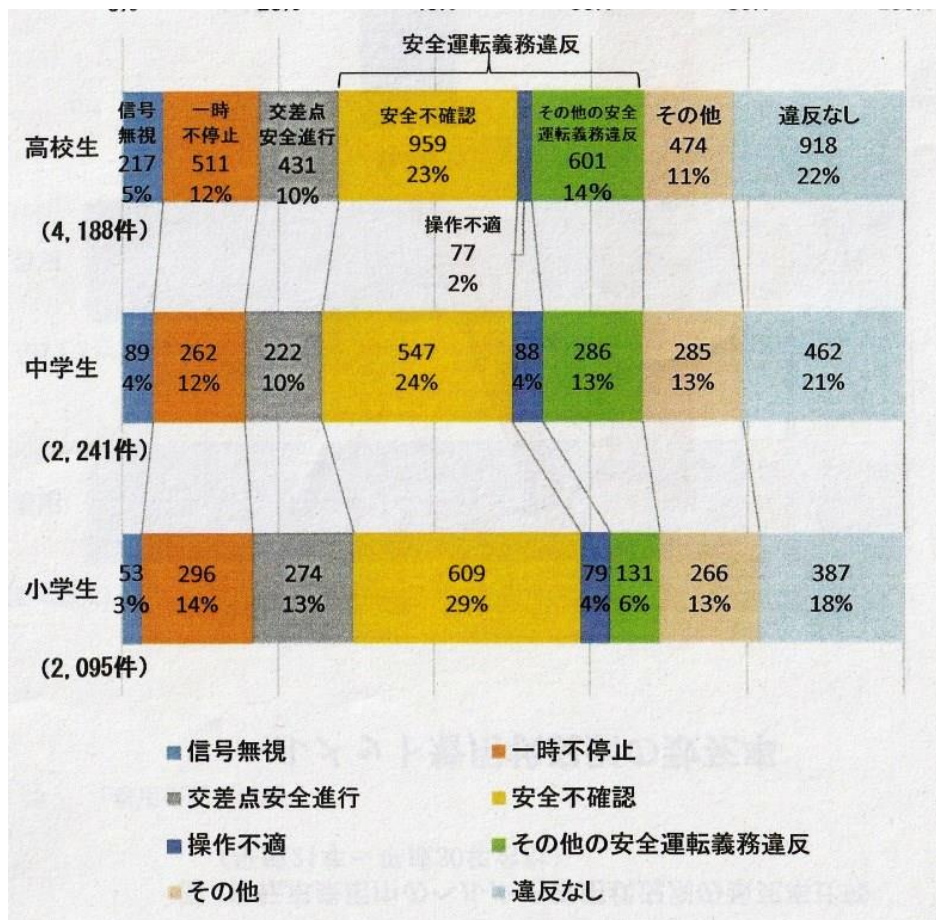
● 自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者(第1・第2当事者)の法令違反なし構成比率の推移(平成20年～30年)

表3は、平成20年～30年間の自転車関連死亡・重傷事故における法令違反なし構成比率の推移である。増加傾向にあり、平成30年は平成20年の、死亡・重傷事故全体で16%増、65歳以上で19%増、高校生で18%増、中学生で29%増、小学生で30%増となった。

表3 自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者の法令違反なし構成比率の推移

平成年	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
全体	23.9	24.9	25.5	24.8	25.3	25.8	26.1	25.9	27.2	27.7	27.7
65歳以上	25.0	25.9	26.5	25.7	25.8	26.5	27.4	26.1	27.6	27.3	29.8
高校生	18.2	21.3	19.9	19.9	22.5	20.4	21.5	21.2	22.5	23.0	21.4
中学生	15.1	17.1	19.0	15.3	16.8	18.3	19.5	21.4	19.6	22.9	19.5
小学生	14.7	16.0	17.3	15.5	19.3	17.0	17.4	19.8	15.8	20.6	19.1

● 児童・生徒の自転車関連死亡・重傷事故における自転車運転者(第1・第2当事者)の法令違反件数(平成26年～30年合計)



以上